

関連項目：教育活動プラン④

人とつながる喜びを味わう場を増やす

目的

本校では、遊びやふれあいの中でいろいろな人とかかわる力を育てようとしています。集会や全校遊び、異学年交流などの場を多く設定し、相手の気持ちを考えながらうまくかかわり、人とつながる喜びを感じさせたいと考えました。

内容

● 毎月1回の全校遊びの活性化

本校では毎月1回全校遊びをしています。遊びを通して大勢で触れ合う経験ができる場になるように工夫しています。昨年の参加率は約80%でした。今年度は体育委員会が中心となって、全校生にしたい遊びをアンケートするなどして集会や放送で呼びかけ、参加率も90%以上になりました。児童は大勢で遊ぶ鬼ごっこなどをとても楽しみにしています。



● 相手意識をもって行う異学年交流の活性化

1年と6年、2年と5年、3年と4年のペア学年で、運動会のペア競技、ペアでの水泳、ペア遊び、ペア読書などを積極的に行い、人とつながる場を多くもっています。例えば高学年は、低学年のため



にどんな活動を行えばよいか学級会で話し合っ実践したり、低学年の喜ぶ本を選んで読み聞かせをしたりしました。高学年は低学年に対する思いやりの心を深めリーダー性を育くみ、低学年は高学年のたくましさや思いやりを感じています。ペア学年でのボランティア清掃、あいさつ運動などにも取り組み、高学年児童がリーダーシップをとって行動するようになりました。

● お互いのよさを認め合う場の設定

児童集会は学年発表や得意技大会などでお互いを認め合う場として重要です。年2回の得意技大会では楽器演奏やダンス発表、縄跳び、漫才などどれも好評です。



普段は現れない個々のよさが引き出され、自尊感情が高まる場でもあります。他にノートコンテスト、音読コンテスト、漢字大会、あいさつ名人、人権月間中の友だちのいいところ見つけ、いじめ防止標語作りと掲示など、多くの場を設定しています。各学級では、帰りの会の「今日のステキな友だち」発表や「きらりの木コーナー」の掲示など、よさを認め合う場の設定を工夫して取り組んでいます。

● すばらしい生き方と出会う場の設定

地域の偉人や歴史上の人物の生き方に学び、自分を見つめ直し生き方を考えられるようにと地域のゲストティーチャーの話を聴く場を設けています。今年度は、6年生に『志をたてて中学生になろう』という話を元中学校長にさせていただき進学に向けて意欲をもつことができました。

成果

このような取り組みをすることで、人の気持ちを感じたり自尊感情を高めたりして、人とかかわる力を育て、人とつながる喜びを感じることができました。取り組みが効果をあげている一例として、学校関係者評価委員から校外で交差点を渡るとき高学年児童が低学年児童に注意していた姿が見られたという報告がありました。活動の計画段階で児童の考えを取り入れ、児童自身が考えて活動できるようにすることを大切に取り組んでいます。